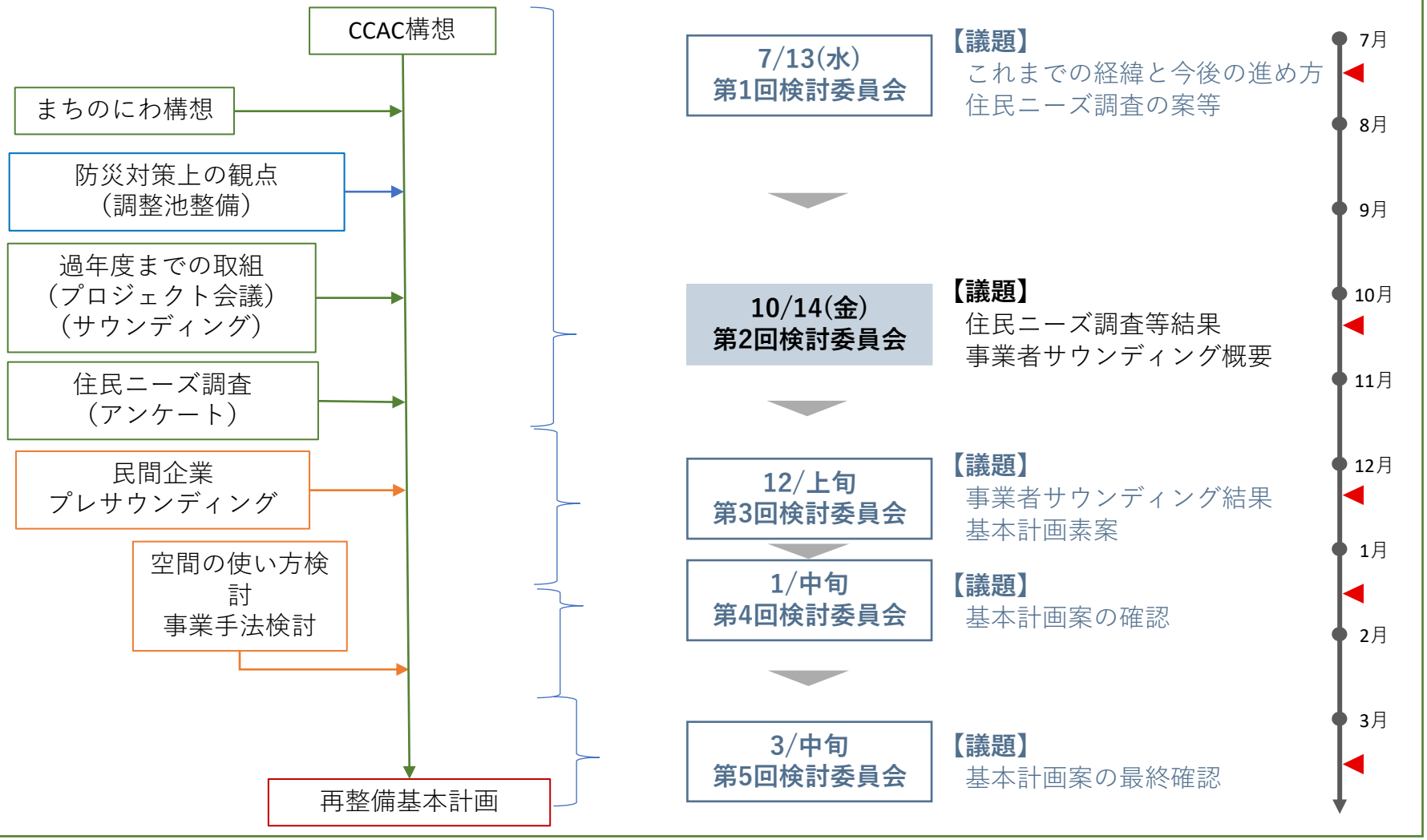
2022.10.14
第2回中央公園再整備検討委員会
資料２

久御山中央公園再整備の方向性について（案）

久御山中央公園再整備検討委員会について

【委員会スケジュールと想定議題】



CCAC構想のコンセプト

■くみやまCCAC構想の基本理念

あらゆる世代の住民が、「居場所」と「役割」を持ってつながり、交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができ、若年層をはじめ、障害者など誰もが地域で働く場を確保し、子育て世代が安心して出産・子育てできる地域づくりを推進することにより、久御山モデルの「地域共生社会」を実現すること

〇まちづくりセンターに期待される７つの機能

久御山モデルの「地域共生社会」の実現

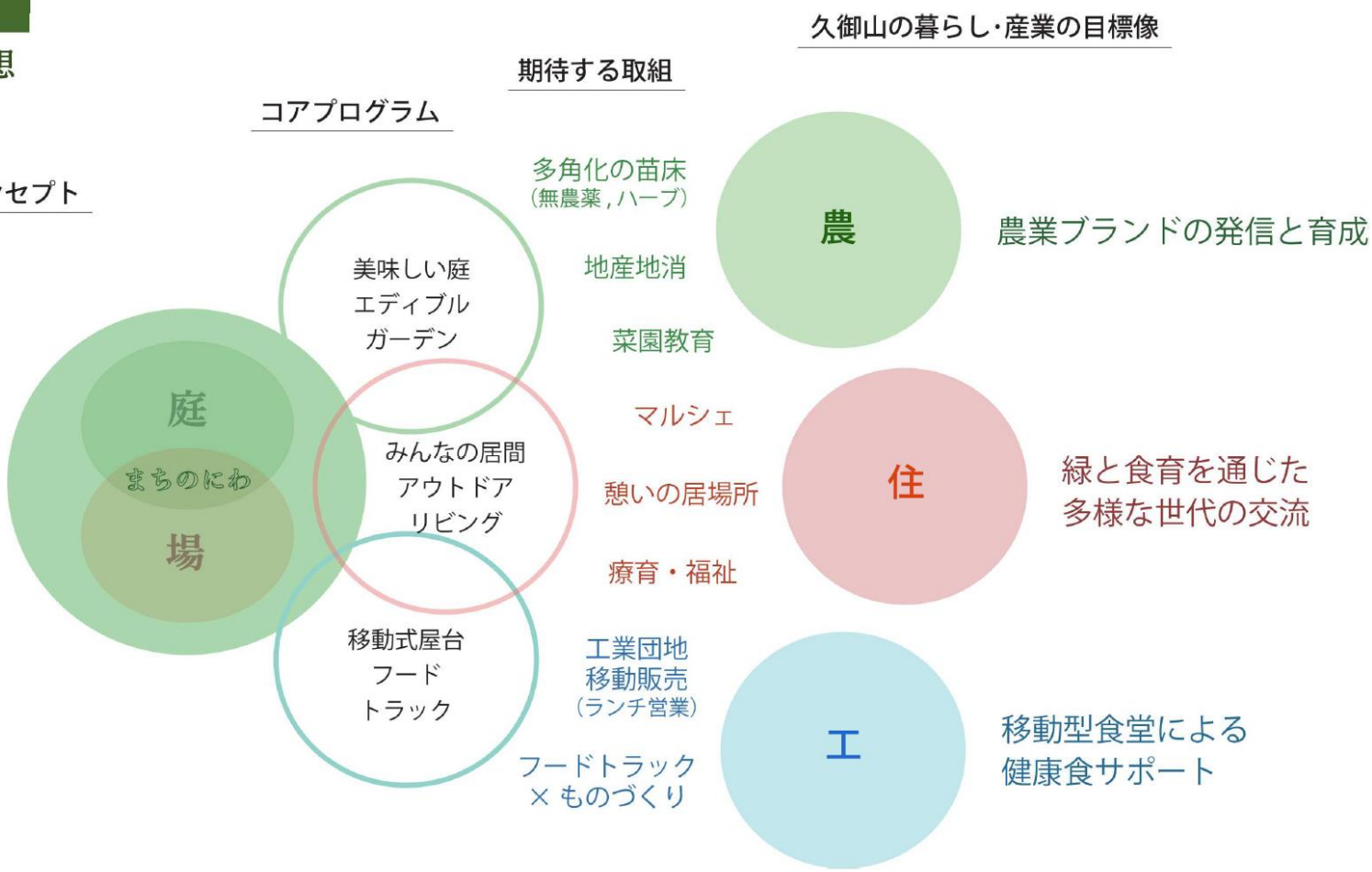
①子育て支援
②子供からシニア世代、高齢者の活動支援
③生涯学習環境の充実
④多世代交流・多文化交流
⑤社会福祉領域との連携・協働
⑥防災
⑦文化財

これからの町づくり、人づくりに向けて
中央公園に求められる基本的な機能・役割は同様

まちのにわ構想のコンセプト

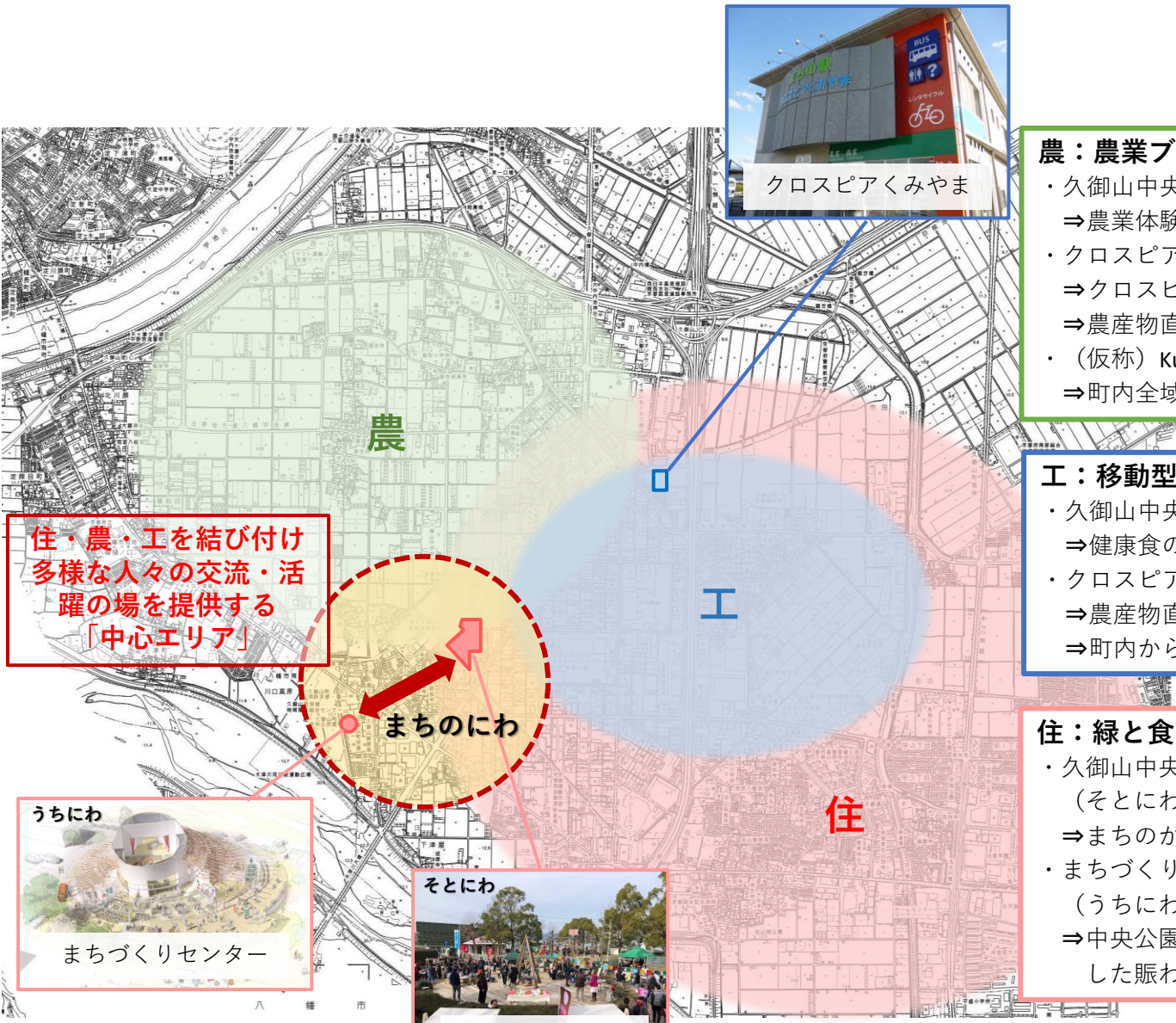
コンセプト

久御山“まちのにわ”構想



住×農×工の交流と
憩いの場となる
「まちのにわ」

町全体における中央公園の位置づけ



農：農業ブランドの発信と育成

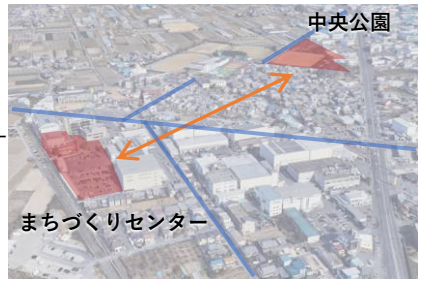
・久御山中央公園
　⇒農業体験WS
・クロスピアくみやま
　⇒クロスピア市
　⇒農産物直売所
・（仮称）Kumiyama エディブルガーデン
　⇒町内全域での収穫体験

工：移動型食堂による健康食サポート

・久御山中央公園
　⇒健康食の提供
・クロスピアくみやま
　⇒農産物直売所
　⇒町内からの食材調達

住：緑と食育を通じた多様な世代の交流

・久御山中央公園
　（そとにわ）
　⇒まちのがっこう
・まちづくりセンター
　（うちにわ）
　⇒中央公園と連携
　　した賑わい創出



町全体における中央公園再整備の位置づけ

まちのにわ構想

「食」戦略に基づいた
住×農×エの交流を促すためのビジョン

住：憩いと食が楽しめる魅力的な環境づくり
農：農業を知り、学び、体験できる環境づくり
工：地産地食による健康な就業環境づくり

↓

中央公園　✕　クロスピア

中央公園

ＣＣＡＣ構想

あらゆる世代の住民が活躍できる、
久御山モデルの「地域共生社会」を
目指すビジョン
【まちづくりセンターの整備】
７つの機能（P3参照）の整備によ
り、賑わいの創出・交流の拠点とな
るとともに、町の居場所となる施設

↓

まちづくりセンター　✕　中央公園

【「再整備基本計画」の策定に向けた検討課題】

・幼児・児童から高齢者までの全世代、障害のある人もない人も、憩え・楽しめ・交流できる公園づくりの検討
・人気・ニーズがあり注目が集まるスポーツ種目が楽しめる運動施設の検討
・ＫＵＭＩＤＡＮなど地域主体組織が主催する体験・交流活動が実施しやすい公園づくりの検討
・公園グラウンド地下調整池（雨水貯留施設）整備とグラウンド利用の検討

現状の整理　1

◎昨年度のサウンディング調査結果のまとめ

■コンセプト

- 地域コミュニティをつくる多様性のある公園
- スポーツ×レジャー×久御山野菜
  ⇒　ブランディングパーク
- 中高生が目的をもって来られる公園
- 子ども～大人～シニアまで遊び、散策、交流、スポーツが楽しめ、健康増進の公園作り

■導入機能（のキーワード）

- 子育て支援、乳幼児用遊具
- インクルーシブ
- ウォーキング
- ボール遊び
- 自由に遊べる多目的広場
- 樹木を活かし、自然とふれ合える癒しの空間
- 有料エリア（3on3、ふわふわドーム、スケボーパーク、ダンスパーク）
- 管理施設
- コワーキングスペース
- 久御山野菜を食べるBBQ施設
- 芝生広場
- カフェ（久御山の特産を活かした独自メニュー）

■収入源確保の取組

- スポーツ施設の稼働率向上、利用料増加
- 自主事業収入となるイベントや教室事業
- 食をテーマとしたイベント
- ツーリング車両の展示会、農産物朝市

■ハード整備

- 集客力の高い施設（農産物直売所、温浴施設）
- 農園
- 有料スポーツ施設

■賑わいづくりの取組

- 地域住民とのワークショップ、住民主体で実施するイベント

■その他

- スポーツ＋αの施設整備により、広域から集客出来るコンテンツが必要
- 農園・BBQ施設・飲食施設は、公園の広さや近隣住民への影響も考慮すると継続的な運営は困難

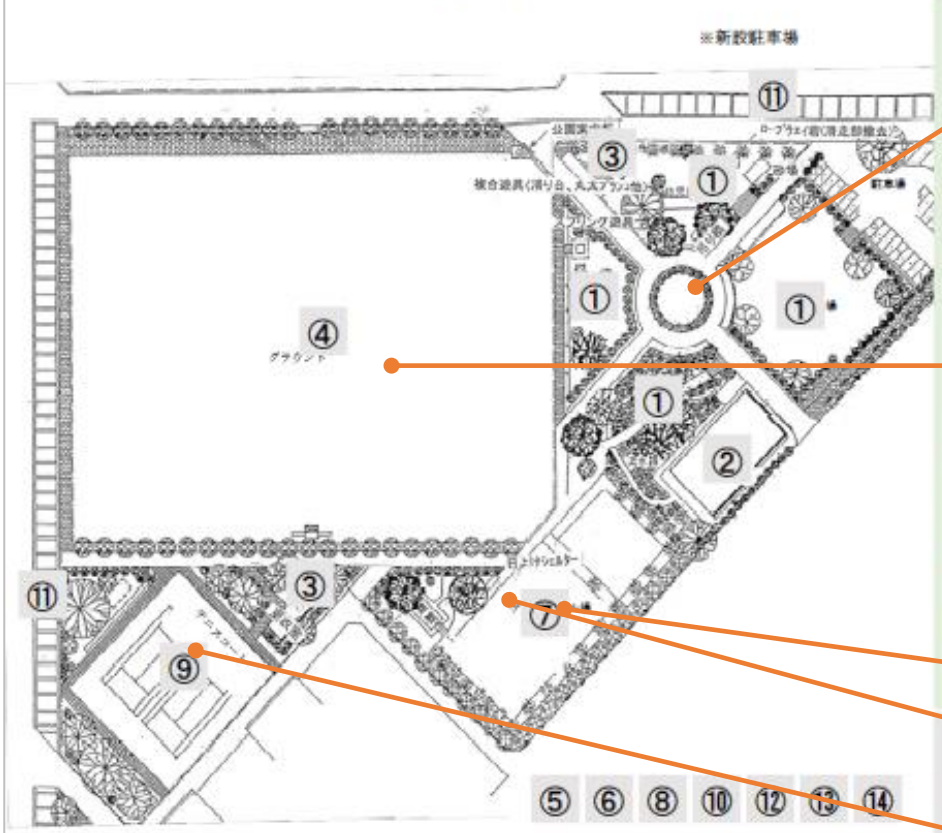
＜キーワード＞
多様性（子ども～大人～シニア）、多用途（スポーツ、散策、交流、健康）、自由に遊べる多目的広場・芝生ボール遊び、樹木を活かした癒しの空間、（特定の）スポーツ施設、カフェ、BBQ

現状の整理　2

◎昨年までの検討における課題＆留意事項

5．基本計画策定にあたっての提案事項の整理

（1）今までの検討から整理が必要な課題＆留意事項



①既存ランドスケープの改修
（高低差、植栽、記念碑、バリアフリーなど）＆未活用エリア活用
②荒見苑の公園施設としての活用
（飲食・休憩機能など）
③トイレ改修、ナーサリー施設
④多目的グラウンドの整備
（埋設型の調整池整備）
⑤防災・災害対策機能の付与
（災害対策機材整備）
⑥多様な主体による利用を促す施設整備
・若年層を対象としたスポーツエリアの整備
・高齢者や障害のある人等も憩え・楽しめる公園整備
⑦ゲートボール場のあり方検討
⑧BBQなど火を使うエリア・施設の整備
⑨テニスコートの再整備
⑩エディブルガーデン整備
⑪荒見都市下水路の暗渠化or床板設置による上部活用
⑫環境負荷の低減（脱・低炭素のまちづくり）
⑬国有地部分における民間事業者自主事業実施の促進
⑭「都市公園法・同施行令」＆「町都市公園条例」に定める施設設置基準の遵守

出典）令和3年度「久御山町“まちのにわ”構想推進プロジェクト会議《第3回》」資料（R4.3.25）

①見通しが良くなる
- 活用可能スペースが広がる
- 費用がかかる

②管理・運営に必要なハード機能に対応可能
- 一体的な施設活用が可能
- 既存の利用者・関係者との調整が必要

③利用者によって求める機能・ニーズが異なる

④既存の規模での再整備を想定
- サッカーの実績・ニーズが高い。人工芝になれば町外からの来園も期待可
- ランニングコストも含めて総合的な判断が必要

⑥ボール遊び可能エリア、スケボーパーク等への希望多

⑥UD, インクルーシブ遊具等

⑦高齢者専用施設状態
- あり方の見直しにより利用者増が期待

⑧防災・災害対策の観点からも必要？

⑨利用実績・ニーズ高。利用料収入の増加が見込める

⑩園内へのハード整備は小規模。ソフト事業と組み合わせて”農”を発信。

⑫LED街灯、太陽光発電等積極的に検討（要コスト精査）

⑪駐車場拡大や公園スペースの増大？
- コストをかけた整備の必要性検討

現状の整理　3

◎今年度のリサーチ結果まとめ（アンケート＋町民討議会＋第一回検討委員会）

アンケート結果等に基づく示唆

① 公園を知らなかったり、利用していない人が圧倒的に多い
② 用事がないので行かない人が多い
③ 幼児を遊ばせるための利用した景観のある人が多い。また子どもが大きくなると公園離れするケースも多い。
④ ボール遊びなど自由に使える広いところがない。
⑤ 見通しが悪く鬱蒼としている、怖い雰囲気のある場所がある。
⑥ 使いやすいトイレなどの整備
⑦ 駐車場が狭く使いにくい。
⑧ 来場者同士の交流が起こりにくい。
⑨ 使う人によって育てていける公園
⑩ 子どもたちに自由にグラウンドを使える時間があっても良いのでは。
⑪ 荒見苑利用者に関しては、施設現状維持の傾向がありつつも、高年齢全体での志向としては、公園での健康活動やくつろぎ・憩いや子ども（孫）との利用にも興味を示す人も多い。

評価が高い点

① グラウンドがよく使われている。
② スポーツの公園というイメージがある。
③ KUMIDANなどの活動がはじまっている
④ イベントなどで人が集まる使い方も出来てきている。

◎リサーチからみるニーズ

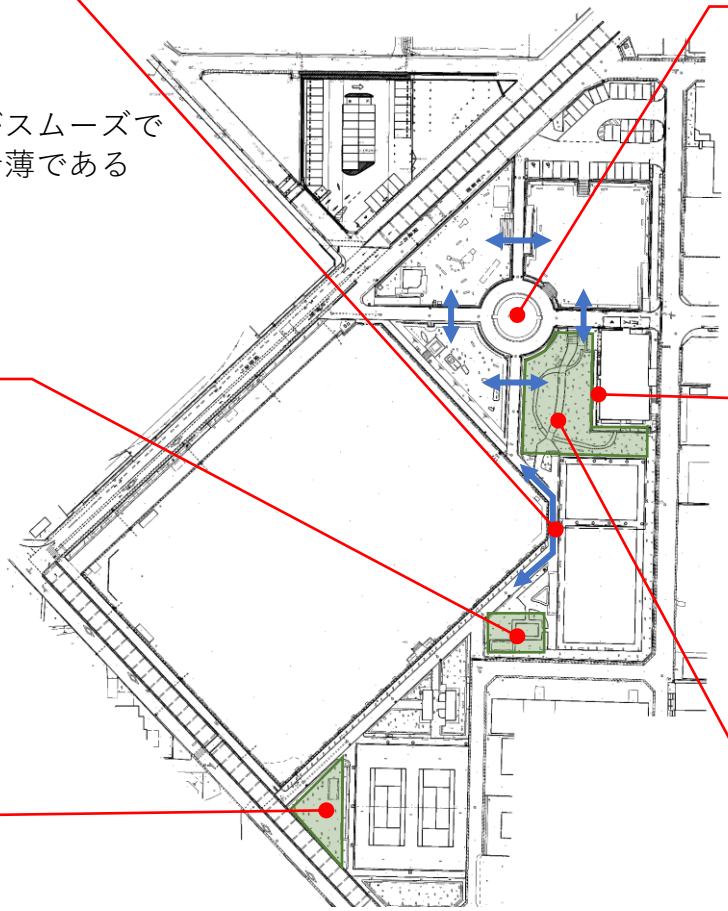
① 今まで利用していない人が多いということは、これから取り込むべき人たちがたくさんいる
② 用事がなくても行きたくなるような居心地の創出が必要
③ 目的になるようなコンテンツの創出が必要
④ こどもの遊び場をどのように設定およびデザインしていくかの議論が必要
⑤ 親が見守りやすい工夫が必要（見通しや日除け、ベンチ等）
高低差や樹木、フェンスの整理などハード整備
⑥ ⑦便益施設や駐車場などの充実が必要
⑧ 使い方を限定しない広場の必要性
公園としての一体感の創出
来場者間に交流が起こるしかけづくり
⑨⑩ 使い方のルール設定
（禁止事項を増やさずに多様な人が共存）
作り込みすぎない公園

空間の使い方に関する現況課題（１）

グラウンドの存在により、動線がスムーズではないため、南北のつながりが希薄である

樹木がうっそうとしていると共に、スポーツ施設利用者以外の一般利用者がくつろげる空間が少ない

樹木がうっそうとしていると共に、未利用地となっている
また、樹形の悪い樹木も多く見られる



高低差によって階段や坂路を使用しないと四方の空間へ行けない状況であるため、空間のつながりが希薄である

公園施設であるにも関わらず、公園との一体感が感じられない

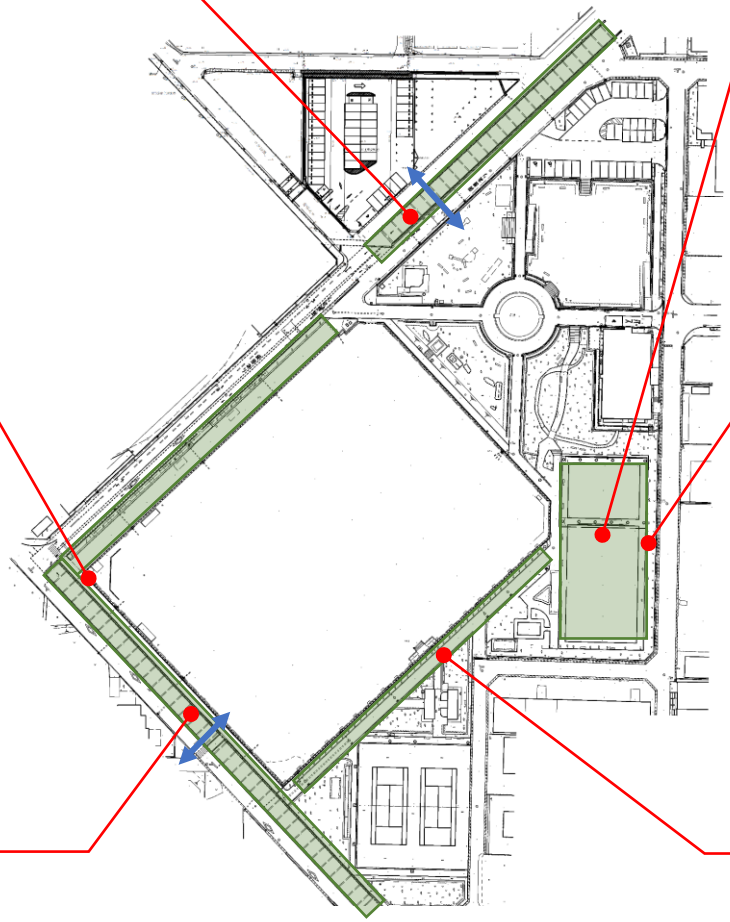
樹形の良い樹木が多く植栽されている一方、見通しが悪い空間となっている

空間の使い方に関する現況課題（２）

水路により、公園内外のつながり・アクセス性が希薄である

舗装が劣化している。
園路がグラウンドを狭めている

水路により、公園内外のつながり・アクセス性が希薄である



特定の利用により、フレキシブルな利用はなされていない

植栽により、公園内の様子がほとんど見えない

植栽により、グランド内の様子がほとんど見えない

現状の整理　4

◎専門家としての空間の見立て

- 周辺環境は住宅や向上などがあり、公園の活動を滲み出しても互いの相乗効果を得ることが難しい。
- まちの中心の公園として、周辺と違った空気感があり、都市的で洗練された場所にすることもよい。
- 多様な活動を受け入れながらも、現状のコンテンツを活かし「遊び」「飲食」「スポーツ」がテーマになっていることが分かるような計画にするとよい。
- 樹齢の高い樹木が多くあり、それらを生かした計画が好ましい。
- 高低差を一掃するのではなく、うまく段差を緩和したり活かしながらデザインしていくと形状・コストともにユニークな計画になる。
- 各機能を個別最適化していくと、来場者間の交流や機能のついで使いなどが起こりにくく、交流や出会いをうむ場所になりづらい。公園のテーマと合わせて、個別最適化しすぎない計画がよい。
- 公園全体をつなげるような、歩きたくような連続した景色を意識した園路計画が必要。
- 使い切れていないスペースがあるが、良い余白として活かしきれていない。計画全体の中でうまく活用したい。

参考：他事例との比較

久御山町
Kumiyama Town
2022.9.17

他公園（芝生広場あり）との参加比較

久御山中央公園（京都府）

豊島区立としまみどりの防災公園（IKE・SUNPARK）（東京都）

籠田公園（愛知県）

大蓮公園（大阪府）

豊島区立南池袋公園（東京都）

※Google マップ 同スケールにて比較